

## ■『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！（草津第二小学校）

### 1 【活動の趣旨】

校区を探検し、まちの素敵やよさをみつけて、自分の住んでいる町のことを知る。自分たちの町に住んでいる人たちや働いている人たちと関わる。

### 2 【特徴的な活動内容】

○草津第二小学校区は、多くのマンションが立ち並んでいるが、駅前の商店街や街道の歴史が残る街並みである。6年生では、一人ひとりが身の回りにある身近な問題を自分事として捉え、母校の創立50周年に向けて説得力のある「私たちにできること」の提案文を書き、地域の方に発信した。身の回りにある環境問題を取りあげ、具体的な事実や考えをもとに、「自分たちにできること」を提案した。今年、草津第二小学校創立50周年の節目であり、保護者、地域の方などに広く発信した。校区内にあるショッピングセンターや駅、市民センターなどにも子どもたちの提言ポスターを掲示していただいた。また、学校のホームページにも掲載し、より広く環境問題について自分たちのメッセージを伝えることができた。

○かつて天井川であった旧草津川の跡地（de 愛ひろば）東西約7キロが整備され、市民の憩いの場となっている。草津川跡地公園マネジメント・パートナーズの協力を得て、その広場に、2年生がすいせんの球根を植えた。子どもたちは、春には、すいせんのきれいな花が咲き、笑顔あふれる広場になることを楽しみにしている。



### 3 【実施に当たっての工夫】

コロナ禍も3年目を迎え、感染防止を十分とる中で、概ね学びを継続することができた。しかし、不特定多数の方と直接交流するような学習は避けた。6年生では、各施設にポスターを掲示したり、ホームページに動画をアップして啓発したりすることで自分たちの環境問題に対する提言をより多くの方に伝えた。



### 4 【事業の成果】

自分たちの学びといろいろな「人」「もの」「こと」の関わりを通して、「地域」に親しみを持つことができた。自分たちが作成したポスターが掲示してある施設に家族と出かけて施設の人と交流したり、自分たちが植えた苗を見に行ったりするなど、子どもたちが地域の人々とのつながりをより深める機会になった。

### 5 【事業実施上の課題・今後の連携・地域協働合校実施に向けて】

地域協働合校コーディネーターから各場所の担当者へ連絡を取り、学習への協力の有無を確認した。快く引き受けてくださるところがほとんどだった。その後の連絡などは担当学年で行った。打ち合わせなどの連絡も多かったため、地域コーディネーターとの役割分担の工夫を考え、調整がよりスムーズにできるようにしていく必要がある。地域協働合校の取り組みを通して、子どもたちに地域社会との関わりや、自分ができることなどを考える機会にしていきたい。また、新たな地域教材を地域の方々の協力を得ながら取り入れていきたい。